

株主の皆様へ

日本板硝子株式会社
第158期 中間報告書
2023年4月1日～2023年9月30日



～ここにも太陽光発電～
この新築ビルは窓やルーフにBIPV
(建物一体型太陽光発電) パネルが採
用され、年間電力需要の約30%が供
給されます。(ドイツ)





ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第158期中間期(2023年4月1日から2023年9月30日まで)の概況についてご報告申し上げます。

2023年11月

日本板硝子株式会社
取締役 代表執行役社長兼CEO

細沼 宗浩

第158期中間期の総括と下半期の見通し

当期上半期の当社グループの事業環境は、前期上半期に高騰する等、大きく変動したエネルギーコストは比較的落ち着いて推移した一方で、原材料コストや人件費等その他コスト上昇の影響を強く受けましたが、継続的なコスト削減、販売価格の改善により吸収することができました。建築用ガラス事業は、欧州で景気減速の影響を受けましたが、その他の地域では強い需要を背景にコスト上昇の影響を価格転嫁で軽減し好調でした。また太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調でした。自動車用ガラス市場は、自動車生産制約の解消に伴い販売数量が増加し、またコスト上昇の影響を軽減するための価格転嫁もさらに実現することができ、収益性が大幅に改善しました。高機能ガラス事業は市場の減速の影響を受けましたが、高い収益性を維持しています。

一方で、欧州や米国での市場金利上昇に伴い金融費用が増加しています。また当第1四半期には当社グループのジョイント・ベンチャーがその保有するロシア子会社を売却した結果、過去に計上した持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益と、投資の一部について過去に計上した減損損失の戻入益を認識しました。

その結果、当中間期の売上高は4,202億円(前年同期は3,757億円)、営業利益は260億円(前年同期は144億円)、親会

社の所有者に帰属する四半期利益は98億円(前年同期は388億円の損失)と前年同期比増収増益で業績予想を上回りました。

下半期の事業環境については、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加は継続する見通しです。また金利上昇による潜在的な景気後退などのリスクにより事業環境は依然不透明ですが、当面建築用ガラス事業は堅調が続く見込みであり、自動車用ガラス事業においては自動車生産の制約がさらに解消していく見込みです。コスト増加の影響を販売価格改善で軽減し、2008年のリーマンショック以降での最高営業利益を目指します。

中期経営計画「リバイバル計画24(RP24)」の進捗

当期で最終年度となる中期経営計画RP24(2022年3月期～2024年3月期)の上半期における主な進捗は、以下の通りです。

「事業構造改革」に伴う高収益事業の拡大については、マレーシアの既存フロート窯への太陽電池パネル用ガラスを製造するためのオンラインコーティング設備の新設が完了し、10月26日に火入れを実施しました(2023年12月より生産開始予定)。「財務基盤の回復」については、当中間期の営業利益率は6.2%まで改善し、自己資本比率は12.6%と引き続き目標の10%以上を維持しています。

当期はRP24の最終年度というだけでなく、次期中期経営

計画を策定し当社グループの未来を創る重要な1年です。今後ともより強固な財務基盤の回復を推進し、次期中期経営計画へとつなげて参ります。

配当について

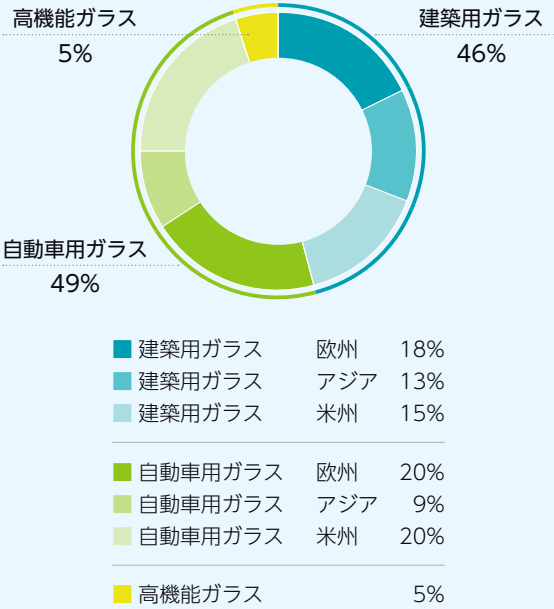
当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識し、持続可能な事業の業績をベースに、安定的に配当を実施することを利益配分に関する基本方針としています。そのため、財務基盤を強化し、将来の事業展開のために適正な内部留保を確保した上で、配当金を決定いたします。

当中間期の普通株式配当につきましては、業績の改善は着実に進展しているものの、当社グループの財務状況等を総合的に勘案し、誠に遺憾ではありますが、その実施を見送らせていただくことといたしました。

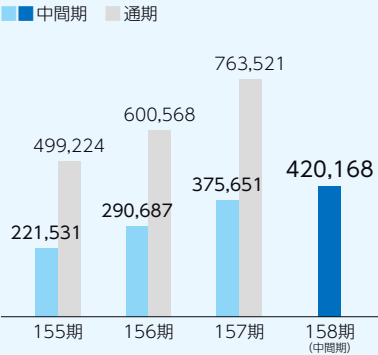
株主の皆様には、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。当社グループは、配当が株主の皆様にとって重要なものであることを認識しており、今後、少しでも早く復配できるようグループ一丸となって一層の収益改善、財務基盤の強化に全力を傾けていく所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

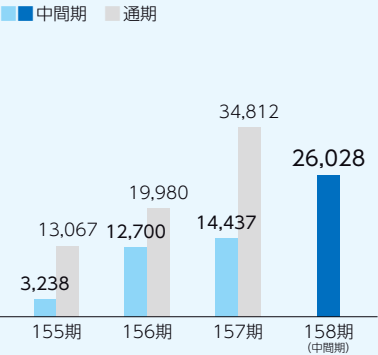
事業別連結売上高構成比



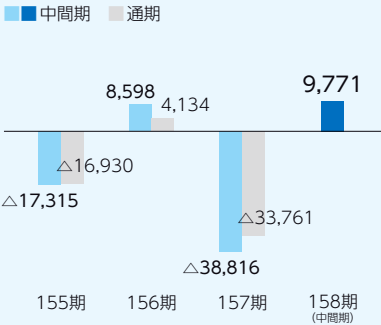
売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



親会社の所有者に帰属する四半期 (当期) 利益 (△は損失) (単位:百万円)



注1:当社は国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。
注2:上記に記載の営業利益は、個別開示項目前ベースの営業利益を記載しています。

快適な生活空間の創造で、より良い世界を築く

×

真空ガラス「スペーシア®」～真空で、ひとつ上の快適を。～

真空ガラス
スペーシア®

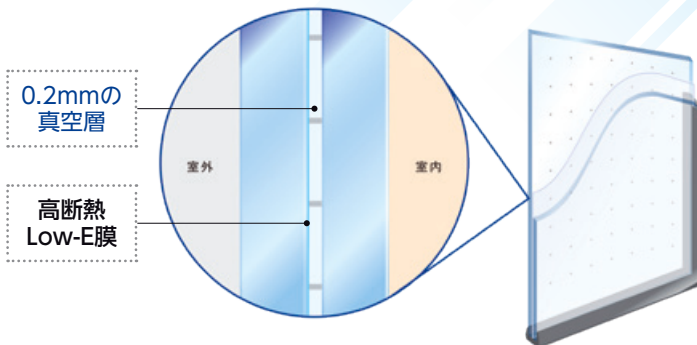
1 真空だから！ 高断熱、高快適の窓ガラス

✓ 高断熱真空ガラス「スペーシア®」とは？

「スペーシア®」は当社が世界で初めて実用化した高断熱真空ガラスです。

2枚のガラスの間に0.2mmの真空層を閉じ込める真空技術と、特殊金属膜コーティング技術により、それまでの複層ガラスの常識を覆す、高断熱性を実現しました。

しかも、一般的な複層ガラスと比較して断熱性能は約2倍なのに厚さは約半分で、既存住宅のサッシでも交換可能なことから、リフォームに最適です。省スペースで省エネルギーを実現する「スペーシア®」は、地球環境の保護、さらには低炭素社会の実現に貢献します。

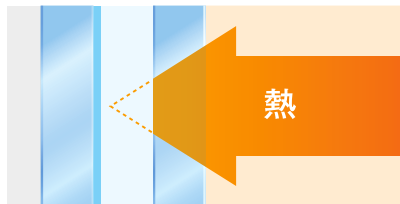


世界で初めて実現された真空テクノロジー。
2枚のガラスの間にある真空層が熱の「伝導」と「対流」を防ぎ、Low-E膜が「放射」を抑えます。

✓ 熱の伝わり方で理解する「スペーシア®」高断熱の仕組み

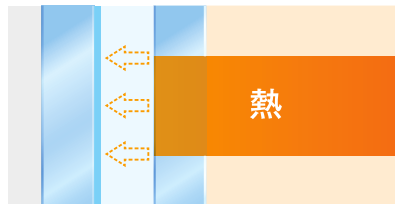
わずか0.2mmの真空層が熱の「伝導」と「対流」を防ぎ、LowE-膜が「放射」を抑えます。

熱の伝導



物体の中を熱が伝わる「伝導」。
真空の中では熱が伝わらず伝導は起こりません。

熱の対流



流体によって起こる熱伝導が「対流」。
空気も水もない真空では対流は起こりません。

熱の放射



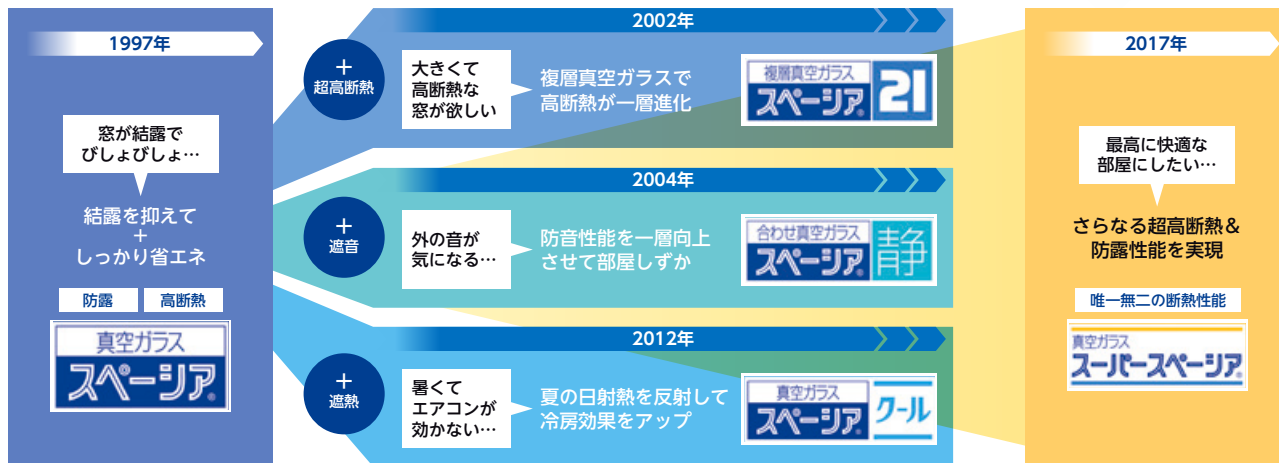
物体から発生する熱エネルギーが他の物体へ移動する「放射」。Low-E膜が放射を抑えます。

2 防露も防音も省エネも！ 進化する「スペーシア®」

「スペーシア®」技術開発の歴史

「スペーシア®」は、1997年の発売以降、多様化する消費者ニーズにお応えべく、製品ラインナップを充実させてきました。特に近年は、地球温暖化防止意識の高まりに加え、エネルギー価格高騰を受けて冷暖房費の大幅な削減を実現する「スペーシア®」はますますご好評をいただいています。

これからも独自の真空技術に磨きをかけ、お客様の様々なご期待に応えてまいります。



ご利用者の声



室内の温度が一定になり、結露も全くなかったのでうれしい。特に冬は5~8℃程暖かくなった。

結露対策にとリフォーム時に取替えたが、防音にも優れている。先日大雨があったが軒の音が気にならなかった。期待以上です。

3 環境貢献への高い評価 環境賞「50回記念特別賞」を受賞

「スペーシア®」が環境賞（国立環境研究所・日刊工業新聞社共催、環境省後援）の「50回記念特別賞」を受賞し、2023年6月27日に開催された贈賞式にて表彰されました。

「50回記念特別賞」は、過去に受賞歴のある企業や団体を対象に受賞後の環境貢献度を評価し、特に優れたものを表彰するものです。当社は2002年度の第29回環境賞において「優良賞」を受賞しましたが、その後も、開口部の断熱性向上によるCO₂削減効果や製品開発によるさらなる性能向上への取り組みを通じて環境保全に貢献してきたことを高く評価いただき、今回の受賞となりました。



環境賞

1 「世界最高水準」～CO₂排出量を50%カット～ 建物の脱炭素化に寄与するLowカーボンガラスを 欧州で新発売

新発売の「Pilkington Mirai™」は、性能や品質はそのままに、①代替燃料の使用、②高比率でのリサイクルガラスの使用、③再生可能電力の使用を組み合わせることで、ガラス製造プロセスにおけるCO₂排出量の「世界最高水準」50%削減(当社従来製品比)を実現しました。建築分野で脱炭素化が推進される中、製品名の「Mirai」には、建物の「未来」を支える「次世代のガラス製品」としてサステナブルな社会に寄与することを目指すNSGグループの想いが込められています。



2 JAPAN MOBILITY SHOW 2023に出展

2023年10月26日～11月5日にわたり、東京ビッグサイトで開催された「JAPAN MOBILITY SHOW 2023」(旧:東京モーターショー)に出展しました。今回は、過去最高の475企業・団体が参加し、自動車業界の枠を超え、来場者が楽しめる様々なイベントが行われました。当社も「make change」をテーマに、部屋でくつろぐような快適空間を創出する次世代モビリティの実現に貢献する未来のガラス製品を展示しました。



3 「NSGグループ サステナブル・サプライチェーン憲章」を制定

NSGグループは全世界で15,000社を超えるサプライヤーから原料や資材、サービスを調達しています。その皆様とともにサステナブルなサプライチェーンを構築していくため、新たに「NSGグループ サステナブル・サプライチェーン憲章」を制定しました。本憲章では、サプライチェーンにおけるサステナビリティに影響の大きい8分野に関し、当社グループの目標とともに、サプライヤーと共同で実施すべき課題を明記しており、今後サプライヤーの皆様とともに、目標達成に向けた行動を強化・加速させていただきます。



8つの 主要分野	温室効果ガス排出の削減	環境保護	労働と人権の保護	廃棄物の削減
	水資源の保全	透明性の向上	ダイバーシティ、エクイティ、 インクルージョンの推進	地域社会への貢献

4

「UFF®」と「glanova®」が SCSリサイクル認証取得

スマートフォンのカバーガラスやタッチパネル、自動車のインテリアなど幅広い分野に採用されている、超薄板ガラス「UFF®」および化学強化用ガラス「glanova®」が、当社で初めてSCS Global Service® によるリサイクル認証を取得しました。この認証により、リサイクルガラス素材の使用率が「UFF®」では35%以上、「glanova®」では38%以上であることが外部機関に認められました。これからも、サステナブルな社会の実現のため、製品リサイクル率の向上に取り組んでいきます。



「UFF®」の認証マーク

※SCS Global Service: サステナビリティ・環境分野における第三者認証・監査機関

表紙写真について

眺望・外観の美しさを損なうことなく、持続可能な社会の実現に貢献するビル
(ドイツ)



ドイツ・ハンブルグ市のハーフェンシティ地区に建設されたEnerparc社の新本社ビル。

このビルの外観は、街並みに調和する赤レンガ色を基調としており、当社グループの半透明BIPV (建物一体型太陽光発電) パネルが採用されたグラスルーフ、正面ファサード、テラスも違和感なく街の景観に溶け込んでいます。建物内部にはそのグラスルーフを通して柔らかく陽光が差し込み、BIPVパネルが生み出す再生可能エネルギーは建物の年間電力需要の30%をカバーする予定です。

役員 (2023年9月30日現在)

当社は、指名委員会等設置会社制度を採用しています。

取締役

独立社外取締役 取締役会議長	石野 博
	指名委員長 監査委員 報酬委員
独立社外取締役	ヨーク・ラウパッハ・スミヤ
	指名委員 監査委員 報酬委員長
独立社外取締役	皆川 邦仁
	指名委員 監査委員長 報酬委員
社外取締役	黒井 義博
独立社外取締役	浅妻 慎司
	指名委員 監査委員 報酬委員
独立社外取締役	桜井 恵理子
取締役	細沼 宗浩
	指名委員 報酬委員

執行役

代表執行役社長兼CEO	細沼 宗浩
執行役会長	森 重樹
執行役常務	レオポルド・ガルセス・カスティージャ
執行役常務	日吉 孝一
執行役常務	岡本 久
執行役常務	大河内 聡人
執行役常務	ロブ・パーセル
執行役常務	フィル・ウィルキンソン
執行役	マイク・グリーンナル
執行役	デニース・ヘイラー
執行役	ミハエル・キーファー
執行役	小林 史朗
執行役	中村 公美
執行役	中辻 陽平
執行役	イアン・スミス

会社概要 (2023年9月30日現在)

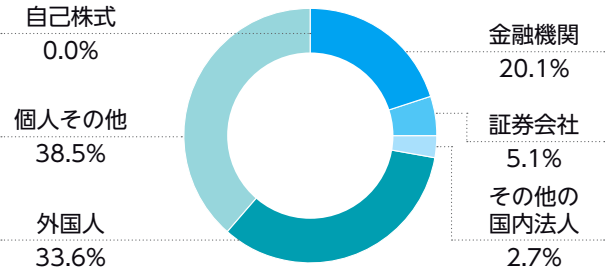
商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産三田ツインビル西館)
設立	1918年11月22日
従業員数(連結)	25,238人
資本金	116,829百万円
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:5202)
お問い合わせ	https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us

株主情報 (2023年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	177,500,000株
発行可能種類株式総数	普通株式 177,500,000株 A種種類株式 40,000株
発行済株式の総数	普通株式 91,349,799株 A種種類株式 30,000株
株主数	普通株式 43,966名 A種種類株式 3名

所有者別の持株比率(普通株式)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当9月30日・3月31日
公告の方法	下記ウェブサイトに掲載する。 https://www.nsg.co.jp/
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
株主名簿管理人 事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(郵便物ご送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話ご照会先)	0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間9:00-17:00(土日休日を除く)

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、上記の電話ご照会先までお問い合わせください。

ウェブサイトのご案内

当社グループのウェブサイトでは、決算情報や最新プレスリリースなど、様々な情報を掲載しております。
どうぞご利用ください。

スマートフォンからは
こちらのQRコードを
お使いください。
(日本語版)



<https://www.nsg.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

